

開学初期の図書館の思い出

文学部教授 池田 碩



奈良大学は昭和44（1969）年に開学したので、もうすぐ40周年をむかえる。初期の学舎は近鉄西大寺駅より南西方の宝来町に位置していたが、20年後の昭和63年に現在の山陵町に移転した。筆者は開学から7年目に赴任したのであるが、それま

では京都の高等学校に勤めながら大学の非常勤講師をしていたので、先生方とも面識があったし、学生も送っていた。

その頃の奈良大学図書館は鉄筋3階建の小ぢんまりした建物で、この稿を書くにあたって調べてもらったところ、延床面積992平方メートルで現在（5444平方メートル）の5分の1位であった。しかし、筆者にとっては大変便利で毎日のごとく利用していた。それには理由があった。まず、私の個人研究室とは渡り廊下をはさんだ向い側という近い距離に位置していたこと。このため毎日の授業の資料データを補うために走ったり、新聞がそろっていたので、あき時間には日々の世界のニュースを追跡しておくためサロンのような気分で出かけたりしていた。さらに、初期の書籍選定にあたられた教授達が大変アカデミックであったようで、外国書や各国の専門雑誌が意外に多かったからでもあった。

しかしながら全体の蔵書数は極めて少なく、現キャンパスへの移転時頃に至ってやっと10万冊となった。この間大学当局では、何とか蔵書数を増やそうと努め苦労されていた。

当時の状況を示す一齣にこんなことがあったのを思い出す。ある年、文部省から監査があり、図書館の蔵書数もチェックされることになった。基準を満たして少しは余裕があることを示すため、事務方の判断で、とある書籍をたくさん持っておられる教授の個人研究室をマスターキーで開けて見てもらった、との報告が教授会で行われ、我々もほっとした。ところが突然その教授が血想を変えて立ち上がられ、了解もなく勝手に部屋に入るとは何たることだと烈火のごとき剣幕で怒られたのである。立派な研究者であったが、時として瞬間湯沸かしの性格をお持ちの有名教授がおられたことも思い起こしつつ当時の担当者を偲ぶとともに、そのような苦労を重ねてきた結果として現在があることを忘れてはならない。

ちなみに現在では蔵書数は37万冊に達しており、





学生一人当りの書籍数では関西の私立大学の中で5位、全国でも50位にランク（朝日新聞社ムック『大学ランキング2007年版』）されているという。初期をすごした者としては隔世の想いである。

前頁写真：宝来学舎図書館の外観

左写真：宝来学舎図書館の閲覧風景

娯楽としての図書館

文学研究科文化財史科学専攻 M2 中山真吾

院生アルバイトの中山真吾です。

さて、皆さんは図書館をどのような場所だと思っていますでしょうか？

図書館は、勉強や調べ物をする堅苦しい場所と思っている人が多いのではないかと思います。実は図書館にはそういったこと以外の娯楽のための物も存在しています。

例えば、AV施設です。もちろん学習のためのDVDやビデオもありますが、ジブリやディズニーなどのアニメ作品、邦画や洋画の有名な旧作や話題の新作と色々そろっています。もし自分の希望するものがなければレンタルビデオ屋で借りてきて図書館で見るということも出来ますし、購入希望を提出し

ていただければ、出来る限り皆さんの希望に沿って購入致しております。但し、本の延滞などで、貸出し停止のペナルティを受けている間は、AV施設の利用も出来ませんので注意してくださいね。

AV施設以外の紙媒体の娯楽としては、漫画が存在しています。こちらはそれほど多くの種類が在るわけではないのですが…どこに何があるかは、皆さんが自分で館内を探してみてくださいね。ハリーポッターなどのファンタジー小説以外にも最近はライトノベルといわれるジャンルの本も入ってきています。専門書を読んで疲れたら気分転換として読んでみてはいかがでしょうか？読みたいものが図書館にない場合はこちらのほうもDVD等と同様に気軽にレファレンスカウンターに購入希望を提出してくださいね。

娯楽の設備があるといっても、図書館は遊ぶところではありませんのでマナーを守って利用してくださいね。騒ぐところでもありませんし、友達との会話を楽しむ場所でもありません。また最近よく飲食物を机の上に置いてあるのを見かけますが、館内では図書館の本を持っていても、持っていなくても、飲食禁止ですので飲食物は鞆の中に閉まっておく等してくださいね。マナーを守って気持ちよく利用しましょう。



図書館からのお知らせ

◎貸出冊数の増加について

貸出冊数を増やして欲しいとの要望に応えるため、平成19年11月から規則を改正しました。下記の通り、学部生・院生とも従来の2倍になりましたので、積極的に利用してください（なお、貸出期間は変更ありません）。

	(冊数)	(期間)
学部生	= 10冊	: 2週間
通信生	= 10冊	: 3週間
大学院生	= 20冊	: 4週間
教職員	= 無制限	: 8週間



貸出期間延長は自宅のパソコンや携帯電話から手続することもできます。詳細は図書館ホームページの利用マニュアルに説明がありますので、ご参照ください (<http://library.nara-u.ac.jp/nara/yotei.htm>)。携帯電話の場合は、上のバーコードを読み込むと図書館ホームページにアクセスできます。メニューで「3. 貸出情報」を選択してから、「利用者ID」に学籍番号と、「パスワード」（初期値は西暦の生年月日。YYYYMMDDの8桁）を入力し、「延長」ボタンをクリックすると、簡単に手続が行えます。

◎コンピュータ・システム「LIMEDIO」の改良について

平成20年1月からOPACの機能が強化されましたので、その概要を紹介いたします。詳細は図書館ホームページの利用マニュアルをご参照ください (<http://library.nara-u.ac.jp/nara/yotei.htm>)。

●「請求記号」の表記が変わりました。

OPAC検索詳細画面の請求記号の表記が変わりました。蔵書の背ラベルをイメージした3段階表示に変更され、確認しやすくなりました。

検索結果詳細：図書

世界遺産学を学ぶ人のために
奈良大学文学部世界遺産を考える会編
京都：世界思想社、2000.10

所蔵	巻号	予約人数	所在・利用情報	請求記号	資料ID	状況	資料種別	刷年	備考	指定図書教員名
<input type="checkbox"/>		0	1F和図書	709 N51	175116					
			1F和図書	709 N51	175117					

●刊年 : 2000
●形態 : iv, 302p; 19cm
●注記 : 参考文献・世界遺産リスト: p260-295
●標題言語 : (jpn)
●本文言語 : (jpn)
●審者情報 : 奈良大学文学部世界遺産を考える会 (ナラ タイガクブンガクブ セカイイサンオ カンガエル カイ)



●返却期日が近づいたことをお知らせします。

マイライブラリの「お知らせ」欄に、各自が帯出している資料の返却期限が近づくと、メッセージが表示されるようになりました。

今後もLIMEDIOは成長を続ける予定です。新しい機能が追加されましたらホームページ等でお知らせいたしますので、どうぞご活用ください。

図書館展示報告 (平成19年度)

図書館展示室では平成19年度、下記のテーマで4回の企画展を開催しました。

今年度は稀観書や特別集書購入資料など、普段はご覧いただけないものを中心に紹介いたしました。企画立案からパンフレット作成まで、全面的にご協力いただいた各先生に深く感謝いたします。

今後も本学の特色を活かした展示を実施して行きたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。



回	テーマ	企画	会期
1	「府県寫真帖の世界」展	三木理史准教授	4月2日～6月23日
2	「ダーウィン『種の起源』：初版本と邦訳の歴史」展	岩崎敬二教授	7月20日～9月21日
3	「会津八一と奈良 ～奈良大学所蔵 会津八一の 上司海雲宛書翰を中心に～」展 (平成18年度特別集書購入資料)	東野治之教授 浅田 隆教授 藤本寿彦教授 安田非常勤講師	10月13日～12月15日
4	「英国人名辞典(DNB)をめぐる人々： レズリー・スティーヴンと ヴァージニア・ウルフ」展 (平成19年度特別集書購入資料)	中尾真理准教授	1月15日～2月29日

後記

奈良大学図書館報第7号をお届けいたします。原稿をご執筆頂きました池田先生、大学院生の中山さんには心よりお礼を申し上げます。来年度ではキャンパス移転20周年の節目を機に、稀観書の展示を企画しております。お楽しみに (編集担当)。

発行：平成20年2月29日
編集：奈良大学図書館 奈良市山陵町1500